

令和6年度平戸市美術展覧会 審査講評

画(一般)の部

審査員氏名(浅野 類二)

一般の部では、出品されたどの作品もとても良質なもののばかりで、賞を選出するにあたり、とても苦慮した。いずれの作家も対象と真摯に向き合いその本質をとらえようとする謙虚な姿勢がうかがえる。

平戸市長賞の「ふ葬」は、他に見られないとても斬新で独特なテーマと対象物の細密で巧みな描写力が目を引いた。この作品の魅力の一つは、作品に潜むテーマについて見る人がいろいろと自由に想像できるという点にある。秀逸な作品といえる。

平戸市議会議長賞の「網端と漁網」は、S60 号の画面いっぱいには実にバランスよく納められていて、その構成美が特に印象的であった。それぞれのパーツが、画面の中で見事に役を演じきっているといっている。配置、数、量、大小などどれをとっても無駄がないところが惹きつけられる。ひとつひとつのパーツをじっくり目で追っていただきたい。

今回は作品数が増えたことと、初出品の方も見られたことがとても喜ばしく思いました。次回を期待します。

令和6年度平戸市美術展覧会 審査講評

画(小中学生)の部 審査員氏名(一山 信二)

画の部の楽しさは学年ごとに表現の違いや成長を感じるころだといえます。

平戸市教育長賞の「もりにかえるきょうりゅう」は、一年生の作品らしいのびのびとしたインパクトある構成で、描きたいものを素直に表現しています。B4 の画用紙を4枚貼り合わせた大きな画用紙は、きょうりゅうの大きさを表現するのに必要だったのでしょう。コラージュとしての表現も相まって迫力ある作品に仕上がっています。

小学生低学年の作品は、物語を題材にした作品が多く、想像力豊かな明るい色彩の作品であふれていました。

小学生中学年の作品は、少し成長を感じ、表現方法が増えた上に、水彩、クレパス、ペンなど画材が豊富になり、楽しさが伝わってきました。

小学生高学年の作品は、写実的な表現が進み、対象物をしっかりと見て表現するスケッチ的な絵が多く見られました。

昨年度よりも作品が増え、全体的に意欲を感じました。